33年

大館市政だより
第五十三号
（毎月一回発行）
大館市役所
発行所 秋田県大館市
編集兼発行人 田村正六

復興に感謝 更に合併の実を

大館市長　佐藤敬治

本年は昭和三十三年である。秋田犬の本場である大館市にとっては当り年とでも云ふところでしょう。

大館にとって最大の厄年であった一昨年の大火災の復興事業も遂に第三年目を迎えた訳です。不燃都市建設を目指した復興計画は予定より一年延長されだけれども、大町、長倉町地区の防火建築帯の工事も意外な暖冬に恵まれて逐次完成し次々と仮店舗を解体して、美しい耐火造の店舗が姿を表わして道ゆく人々の目を驚かしている。この防火帯の工事が完成した時には街はどのように変貌するか斯く具体的にその偉容を想像出来るようになったことは、何よりと思う。

復興事業の最大の悩は換地問題であるけれども、個人の利害が相さく綜しているために困難を極めている。これだけの大事業であるから一朝一夕に簡単に出来るとは考えていない。併し延ければ延びる程お互に不利益を招くことになるのである。勿論この問題は私共当局者の最大の努力を傾注するところであるが復災市民の努力なくては不可能な事業である。出来るだけ大局の見地に立って御協力を願いたい。

◇　◇　◇

旧市内はこゝ数年火災とその復興に明暮れているけれども、合併地区にとっては合併第一期の最後の年でもある。

私としては出来るだけ誠実に合併に基く建設計画を進めて来た心算であるが、火災等のためにかなり遅延した部分もあることは否定出来ない。今年度で一応災復興もピリオドを打つことになれば、更に合併の実を進めることが出来ると思う。

◇　◇　◇

この年で 火事の整理を

市議会議長　渡部綱次

昭和二十六年四月から三十年三月までの四年間を第一期の市政とするならば、三十年四月からを第二期の市政ということができましょう。

そして私は、これまでの第二期市政の三年間を一言にしていうと〝火事の騒ぎで三年〟と申しても過言でないような気がします。

こういうと〝何んだ、お前は消防団長もやっていながら怪しからん〟とお叱りを蒙るかも知れませんが実感を偽ることができない性分ですので……。

特に一昨年の、市の中心街の大火災の傷痕は、いまなお私共の目に生々しく映ってゐます。

さて新しい年を迎えましたが、私はこの年を火事の整理の一年にしたいという考えでいます。

これは、どんなことをしたって、この一年で全部整理しなければならない。その一番大きな理由は、罹災された方々を一日も早く立ちあがらせること。もう一つは、私共が公人として活動できるのは、実質的には今年一年よりないことで〝任期中に起きたことは、任期中に解決する〟という公人としての常識に従いたいと思うからであります。

昨年は火事の整理に、市の力を集中したために市政が平均せず、いろいろと市民の皆様からお小言を頂戴いたしましたが、今年はお小言をあまり頂戴しないようにして、最後の仕上げに努力し、一日も早く安定した市政を築きあげたい所存です。

昨年同様、今年も深い御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、私の年頭の御挨拶といたします。

大館市議会

議長　渡部綱次
副議長　佐藤栄治
議員
佐藤猪太郎　石川芳男　菅原勇治　釜谷義雄　高松善治郎　虻川耕一　八神錦三　佐藤民二郎　木村忠助　越山米太郎　嶋崎泰光　畠山俊夫　桜庭重蔵　小畑勇吉　越前孫吉　近藤久司　築館米三郎　渡辺清三郎　畠山耕英　石戸谷錦吉　菊地忠吉　石田徳太郎　佐々木正治　桜庭小右ヱ門　村井信一郎　太田部武蔵　上村清左ヱ門　奈良勉　小坂元治　武茂信雄　藤嶋米太郎　石田憲蔵　菅原一雄

議会事務局長　鎌田勝郎

大館市役所

市長　佐藤敬治
助役　小坂直司
収入役　石田純二郎
総務課長　田村正六
財政課長　虻川文夫
民生課長兼福祉事務所長　竹内福哉
商工課長　竹内省三
農政課長　富樫政市
林政課長　武石圭一
建設課長　吉金亮三
収入役室長　小笠原三郎
水道課長　唐沢重雄
釈迦内支所長　丸谷正己
長木　佐藤清忠
上川沿　小林賢之助
下川沿　本多与市郎
二井田　渡辺正明
真中　佐藤稔
十二所　斎藤稔
教育委員会教育長　伊藤経雄
消防長　小林定義
選挙管理委員会書記長　前田嘉太郎
その他職員一同

大館市行政協力員規則

昭和三十二年七月一日
規則第十号

第一条　この規則は、市政の円滑な運営と行政能率の向上を図るため、行政協力を設置することを目的とする。

第二条　行政協力員は市長の定める区域毎に一名を置き、一区域は概ね三十世帯以上百世帯程度とする。

第三条　行政協力員は当該区域住民の推薦により市長がこれを委嘱する。

前項の推薦の方法は直接選挙若しくは、世帯の群（概ね十五世帯程度を単位とする群をいう以下同じ）代表による間接選挙等、住民の総意を率直に反映されるようにしなければならない。

第四条　行政協力員の任期は二年とするただし、再任を妨げない。

第五条　行政協力員は、市役所（支所・出張所を含む）担当区域内住民の中にあって明るく楽しい共同生活を実現するための市長が委嘱する次の事務を行うものとする

①諸調査書、報告書及び通知書の配付並に取まとめに関すること。

②周知事項の伝達及び連絡に関すること

③担当区域内住民の市政に関する意情の取次に関すること。

④その他必要と認めること

前項第三号の市政に関する意情の取次は別記様式の意情由出書によって行うものとする。

第六条　行政協力員は担当区域内住民の協力を得て、担当事務の効果を挙げるために世帯の群毎に世話人を委嘱することができる。

第七条　行政協力員は担当区域内住民が任意に組織した団体（町内会等これに類似したものをいう）に加入しない当該担当区域内住民に対しても、市民が委嘱した事務に限り差別的な取扱により不利益を与えてはならない。

第八条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

1　この規則は、公布の日から施行する。

2　この規則施行の際、現に町内協力員として在任している者及び当該担当区域は、この規則により委嘱された行政協力員（以下「現任協力員」という）及び定められた区域とみなす。

3　現任協力員の任期は、第四条の規定にかかわらず、昭和三十三年三月三十一日までとする。

4　この規則施行の日から前項の日までに在任し、現任協力員が死亡し、若しくは辞任し、またはその担当区域が他の担当区域に編入された場合における当該現任協力員の任期は、前項の規定にかかわらず、その死亡若しくは辞任の日、又は他の担当区域に編入された日の前日までとする。

〃今年は何をする〃と題して市役所の、所謂、対市民的仕事を担当する立場から、新しい年への構想やら、実施を予定されていることがら、或はそれについての見透し、さらにはそれらの仕事を通じての所感経過報告といったものを聞いてみた。勿論、これらの中には市の財政的裏付けがなければなし得ない問題も多いわけですが、しかし、単なる思いつきや、期待薄しなことがらは極力さけ、新年度に当面し、或は、まじめに考研されていることがらについて、平易に概観してみた。しかし前述の如く、財政、即ち再建団体としての立場、さらには新年度予算編成の過程であることなどからも多少の抽象は免れないが、しかし、少くない考慮、或は希望をもつて述べられていることであつてみれば、仮りに、その各々が満足される結果として得られないまでも、早晩解決さるべきものであろうことが伺えると思います。また、こうした意味あいからこそ、市民の皆様に紹介し、その協力を願うものであります。（広報係）

（写真は続々新装を見せる大町耐火建築群）

昨年の九月に、私が大館市にお世話になつてから初の任期を満了したわけでありますが、非才ながらも皆様の御支援を得まして、再び助役としての職にとどまることになり、その職責の重大さに対する気を新たにした次第であります。前四年間の経験を生かし、さらにはよく反省いたしまして、皆様の御期待に添うよう精一杯の努力をはらいたいと念願しております。何卒宜しくお願いいたします。

さて、広報の編集つ子から〃昭和三十二年を顧りみて〃と題しての原稿をと注文されましたが、御当こられたスペースで、あれも、これもと考えてみると、なかなかうまく書かれないものです。しかし昨年を顧りみるとなれば、なんとしても、まづ第一に火災復興都市計画や、防火建築帯事業をあげなくてはならないと思います。

私もそうですが、どうも、この火災という文字や言葉には一日もはやく、そして将来とも縁切りたいものだと思いますが、なんといつても昨年の市政の焦点はこの事業の一日もはやい完成にあつたわけで、幸いにも罹災された方々の血のでるような努力と協力によりまして、めざましい進捗をみ、東北有数のモデル都市としてが新年度一杯で完成する段階にまで漕ぎつくことができまして、その努力の成果をともどもに喜びたいと思います。

昭和三十二年を顧◇り◇み◇て

助役　小坂直司

このほか昨年実施した主な事業としては、市営青果卸売市場の設置、上水道事業、宗福寺線街路事業、四階建市営アパート、大滝橋、二井田大橋の架橋工事、新農村建設事業、そのほか学校公民館、支所などの新築又は増改築や道路建設改良事業などが沢山あります。また対外的には日本交通公社案内所の誘致、パーチクルボード工場の設立などがあります。

青果卸売市場は七月一日から開設されましたが、これは生産と消費生活の合理化をもたらそうとするもので、農政、商工面において、将来に期待される大きな使命と要素を内包しているものであります。

また文化都市には不可欠な上水道事業も、一部被災区域の未区画整理地を除いては全くその工事を完了し、二千トン貯水槽、停電時のデーゼル機関による送水など、その施設々備も完全に整備することができまして目下給水普及推進月間として、皆様方の家庭向け配管工事をすすめている次第でありますが、主婦の方々を過労から守るためにも、また衛生的でおいしく、便利で経済的な水道の利用を心からおすすめする次第です。

また罹災者や住宅困窮者のために、東北初つの耐火四階建アパート三棟を建築、内二棟には既に昨秋入居させ、一棟は目下工事を急いでおりまして新春早々入居できる状態であります。

また労災病院の設置によつて活況を呈してきた軽沢地区は温泉の開発とともに、その発展が大きく期待されていますが、更に目下工事を進めております大滝永橋の完成によつて一層の発展が約束されております。現在、都工が鋭んと完成し、この五月全工事の竣工をめざして工事がすすめられています。

次に関係方面から強く要望されていました二井田大橋、金長三百米におよぶ架替工事も、内外関係者の努力が結実し、愈々永久橋として着工することに、三十二年度下部工、新年度上部工の二ケ年の継続事業として完成する運びとなりまして非常に喜ばしく存じております。

農政面につきましては、新農村建設総合対策事業として当市南部地域が指定を受けまして、三十二年度をもつて二ケ年にわたる事業の完了をみたわけでありますが、これは農業経営の合理化、多角化によつて農業の危機に対処できる体勢を整えようとするもので、種々のモデル施設が設けられたわけであります。

事業の主な内容をみますと共同作業施設二（共同作業所、同種類似労場、集荷施設）生活文化研修施設八（青年キヤンプ研修施設、農事放送施設、生活改善）土地改良事業（開畑、暗渠排水）流地適産奨励施設（裏作奨示施設）などがあげられます。

さらに農業関係では酪農振興事業があります。これは米代中洗地域として昨年九月に指定をうけたものでありまして新年度から六ケ年に亘つて行おうとするものであり、乳牛の導入、牧野改良、飼料作物の増産、サイロ施設などを整備することによつて酪農の振興を図ろうとするものであります。このほか、学校、公民館、支所の新営、増改築をはじめ、道路新設、改良、林道事業など多くの事業を実施いたした次第であります。当初において申上げましたとおり、火災復興関係に、どうしても市政の重点をおかなければならなかつた関係と、更には再建団体としての財政計画の枠といつた面もあつて、一般的な道路、小橋梁の補修といつたところまでの力が及ばなかつたことも偽れないことであります。その点については甚だ申訳ないと存じている次第です。一日も早く、これらの事業を完了いたしまして、その遅れをとりもどしたいと努力しているのであります。

日本交通公社案内所の誘致は都市として或は市民の各方面から要望されていたものでありまして、これが誘致に成功できたことも記念すべきことと思います。

更に市の経済振興上第一に期即ち第二次産業の開発こそ緊要でありまして、この面について昨秋パーチクルボード工場を大館市に創設するため市と木材関係者が一体となつての努力が結実しまして漸く発足の運びとなり、新年度は工場の建設、早ければ明春には操業できるのではないかと嬉しい見通しをもつております。

事業等につきましては、この位いにいたしまして次にいやでも市役所の内部に対する一言ふれなければならない風評を頂いた面もありまして、市民の皆様には大変申訳なく存じておりますが、皆様も御承知のように一部心遣いによる不祥事のあつたことは誠めなければならないとしても、新聞等世上いわれたような混沌のようなことは警つてないのでありますから、この点御了解のないようにお願いしたいと思います。悪は悪として断乎処分されなければならないものでありまして、この点については市役所内の綱紀を粛清し、事務機構などについても今一層の研さんを重ね、合理的、能率的なものとして、市民の皆様のサービスをより高いものにしようと努力しておるものでありますから宜しく御理解、御協力を賜りたいと存じます。限られたスペースで買い足りない面もあるのでありますが、この程度で筆をとめたいと思います。

市民の皆様、よいお年をお迎えられますように、そして今年も市政の面につきまして従来にも増して御指導と御協力をお願いする次第です。

新市建設計画の調整と

アンドカードパウチツステムとその応用の考察寸描

平常あまり目立つ仕事といつたものでないのが総務課ですが、しかし、新春を迎えての課題、構想といつた面については次の二つをとり上げることができます。

一つは新市の建設計画の調整と、その強力な遂行であり他の一つは、市役所を市民のサービスセンターとして、如何に近代的、能率的なものに改革するかの研究課題であります。

先づ前者については、当面の緊急課題であり、合併によつて大きく膨張した新市を、如何なる施策を通じて発展させてゆくべきかということですが、全市の一体的な立場から、科学的にこれを考究し、豊かな市民生活を通じた大館市発展の基礎づくりをしようとするものです。そしてこれは経済総合調査とも併行して押し進められるものであります。

市では新市町村建設促進法にもとづいた、これらの事業を新年度から行うことになり目下その基礎調査を実施しているもので、調査の完了とともに、各界の代表者からなる建設審議会を設置し、新市の建設に本腰をとつくむことになつています。

次に後者の問題については市役所をどのような機構に整備したら主も合理的、能率的しかも経済的に市民のサービスステーションとして、そのの機能を発揮できるかということであります。これは社会の進歩とともに真剣に考究されるところとなつているものです。先進都市においては既に実現されています。これはアンドカードパウチツステムと、その応用から考え出されることで、単的にこれが実現の場合の例をとつて説明にかえるとこんな具合です。

例えば、あなたが市役所へ戸籍謄本と納税証明をもらいに来たとします。従来なら戸籍謄本は一階の商工課戸籍係へ、納税証明の方は二階の財政課税務係へと廻り歩かねばなりません、相当な時間があることです。しかし、ここに市民室を設けて機構を整え事務を簡素化しますと、あなたは市民室を訪れて所用を伝え、控室で一ぷくする間もなく、あなたの所用は足せるのです。市民室には、あらゆる台帳が整然と並び、あなたの要求のものはカード一つで素晴しい早さで取り出されますこれが優秀な化学機械によるステーションとして、そのの数分を要せず複写されます。市民室の女の子が「ハイ、お待ちどうさまでした」といつた具合で、あなたの手に渡されるといつた仕組です。

また合併地域の皆さんにはどうでしよう。各地区の要所要所に連絡箱が設けられますから

今年は何をする

農業危機を示唆

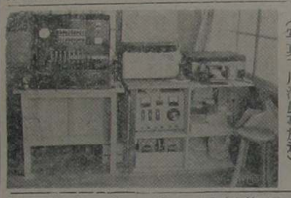
打開は経営の多角化で

農林省は、昨年の八月「農業経営が多く内包されている林水産業の現状と問題点」との農業の実態は全般的に、題した初の農業白書を発表しましたが、これに引続いて「これからの農業経営はこうした問題と真剣にとっくんで行く心構えをもつと同時に経営の多角化合理化による生産性の向上に施策の重点をおかねばならないと考えます。

▼新農村建設総合対策事業　大館市南部地域（下川沿、上川沿、真中、二井田、十二所）は昭和三十一年度に特別助成事業実施地域に指定されましたが昭和三十二年度を以て一応事業が完了するので新年度においては是非とも北部地域（大館、釈迦内、長木）の指定を受け二カ年の継続事業で新農村建設の推進図ろうとしています。

▼酪農振興事業　三十二年九月二十四日に米代中流地域（大館市、北内町、田代町、鷹巣町、合川町、森吉町）が酪農振興法にもとずく集約酪農地域に指定されましたので、新年度から六カ年計画を完了することになっています。これは農業経営の多角化対策の一環として行うもので、優良乳牛の導入、飼料の自給を確保するための牧野改良、飼料作物の増産、サイロ建設等について指導援助を行うことになっています。

▼土地改良事業　農業経営の合理化を図るには、土地条件を整備すること



二井田・一関国郎氏愛犬

（写真下川沿農事放送）

が基本要素でありますので農政の実施母体であり農村経済の中枢機関である農業協同組合等の育成強化を図り、特に区画整理（真中、釈迦内、柄沢）溜池工事（二井田、真中、十二所）暗渠排水工事などに重点をおいて、その調査設計の受託、施工指導を行うことにしています。

▼耕種改善指導事業　水稲及び畑作の耕種改善に重点をおき、特に育苗市場との関連において計画生産、計画販売のための特産地育成を図るとともに病害虫の防除対策の万全を期することにしています。

▼農業団体の育成強化と活動の総合調整　農協の実態調査を行って、その適切な利用を考えようというもので、こうした組合等の育成強化を図り、特にその活動の総合調整によって新農村建設、酪農振興、土地改良など一連の農政活動の推進をはかろうとしています。

▼目的集団、研究集団の育成強化　小農家組合、農協青年部、農協婦人部、四Hクラブ、各種農事研究会等の組織の整備を図り、特に研究集団については研修施設（新農村キャンプ施設）を通じての育成指導等を図るなどの重点事項をとりあげています。

入会地の整理

バーチクルボード工場設立きまる

農山村に囲まれた所謂農村外包都市としての大館は、農村部の振興なくしては発展できない性格をもっています。そこで経済立市の構想を科学的に樹立しようとして実施した、大学、県の権威者による経済総合調査。本年度はこの伝家の宝刀のもとに重点施策を強力に押しすすめようとしています。

他の諸産業についても云えると思いますが、特に林業は百年の大計といわれるごとく長期に亘って資本が固定されるもので一朝一夕に利害得失を論ずることができません。このことは林業推進上極めて重要なことで、ややもすれば林野の大きなめぐみを忘れ、或は、その僅かな投資を惜しんだことによって悔を千載に残すことともなるのであります。私どもは今こそ、林野の日常におよぼす直接的、間接的大きな効用について認識を新たにしなければならないと思います。

このようなことから、まづ考へられていることは入会地の整理であります。これは所有区分を明確にすることによって土地の高度な利用と合理化を図ろうとするものです。整理後の土地利用は植林だけを主目的とするものではないので、関係部落の経済事情、また整理しようとする土地の傾斜度や土壌構成など科学的な面からも慎重に検討し、畑果樹園、採草地、放牧地、或は造林地として適切にその利用を図ろうとするものです。

これは市が入会地を強引に整理を行おうとするものでは毛頭ないので、現在の入会地が関係部落において多角経営され、いざかえなく適切な利用が行われているものはそれで結構なことなのです。

ただ、原野状態のままに何等の利用方途も構ぜられず放置されがちな入会地について関係部落との家族的な雰囲気の中で、円満な話し合いによって、その適切な利用を考えようというものです。こうした組合等の育成強化を図り、特にその活動の総合調整によって新農村建設、酪農振興、土地改良など一連の農政活動の推進をはかろうとしています。

▼目的集団、研究集団の育成強化　小農家組合、農協青年部、農協婦人部、四Hクラブ、各種農事研究会等の組織の整備を図り、特に研究集団については研修施設（新農村キャンプ施設）を通じての育成指導等を図るなどの重点事項をとりあげています。

入会地の整理

バーチクルボード工場設立きまる

農山村に囲まれた所謂農村外包都市としての大館は、農村部の振興なくしては発展できない性格をもっています。そこで経済立市の構想を科学的に樹立しようとして実施した、大学、県の権威者による経済総合調査。本年度はこの伝家の宝刀のもとに重点施策を強力に押しすすめようとしています。

他の諸産業についても云えると思いますが、特に林業は百年の大計といわれるごとく長期に亘って資本が固定されるもので一朝一夕に利害得失を論ずることができません。このことは林業推進上極めて重要なことで、ややもすれば林野の大きなめぐみを忘れ、或は、その僅かな投資を惜しんだことによって悔を千載に残すこととともなるのであります。私どもは今こそ、林野の日常におよぼす直接的、間接的大きな効用について認識を新たにしなければならないと思います。

このようなことから、まづ考へられていることは入会地の整理であります。これは所有区分を明確にすることによって土地の高度な利用と合理化を図ろうとするものです。整理後の土地利用は植林だけを主目的とするものではないので、関係部落の経済事情、また整理しようとする土地の傾斜度や土壌構成など科学的な面からも慎重に検討し、畑果樹園、採草地、放牧地、或は造林地として適切にその利用を図ろうとするものです。

これは市が入会地を強引に整理を行おうとするものでは毛頭ないので、現在の入会地が関係部落において多角経営され、いざかえなく適切な利用が行われているものはそれで結構なことなのです。

ただ、原野状態のままに何等の利用方途も構ぜられず放置されがちな入会地について関係部落との家族的な雰囲気の中で、円満な話し合いによって、その適切な利用を考えようというもので、こうした組合等の育成強化を図り、特にその活動の総合調整によって新農村建設、酪農振興、土地改良など一連の農政活動の推進をはかろうとしています。

▼耕種改善指導事業　水稲及び畑作の耕種改善に重点をおき、特に育苗市場との関連において計画生産、計画販売のための特産地育成を図るとともに病害虫の防除対策の万全を期することにしています。

▼農業団体の育成強化と活動の総合調整　農協の実態調査を行って、その適切な利用を考えようというもので、こうした組合等の育成強化を図り、特にその活動の総合調整によって新農村建設、酪農振興、土地改良など一連の農政活動の推進をはかろうとしています。

▼耕種改善指導事業　水稲及び畑作の耕種改善に重点をおき、特に育苗市場との関連において計画生産、計画販売のための特産地育成を図り、特に研究集団については研修施設（新農村キャンプ施設）を通じての育成指導等を図るなどの重点事項をとりあげています。

▼目的集団、研究集団の育成強化　小農家組合、農協青年部、農協婦人部、四Hクラブ、各種農事研究会等の組織の整備を図り、特にその活動の総合調整によって新農村建設、酪農振興、土地改良など一連の農政活動の推進をはかろうとしています。

入会地の整理

バーチクルボード工場設立きまる

農山村に囲まれた所謂農村外包都市としての大館は、農村部の振興なくしては発展できない性格をもっています。そこで経済立市の構想を科学的に樹立しようとして実施した、大学、県の権威者による経済総合調査。本年度はこの伝家の宝刀のもとに重点施策を強力に押しすすめようとしています。

他の諸産業についても云えると思いますが、特に林業は百年の大計といわれるごとく長期に亘って資本が固定されるもので一朝一夕に利害得失を論ずることができません。このことは林業推進上極めて重要なことで、ややもすれば林野の大きなめぐみを忘れ、或は、その僅かな投資を惜しんだことによって悔を千載に残すこととともなるのであります。私どもは今こそ、林野の日常におよぼす直接的、間接的大きな効用について認識を新たにしなければならないと思います。

このようなことから、まづ考へられていることは入会地の整理であります。これは所有区分を明確にすることによって土地の高度な利用と合理化を図ろうとするものです。整理後の土地利用は植林だけを主目的とするものではないので、関係部落の経済事情、また整理しようとする土地の傾斜度や土壌構成など科学的な面からも慎重に検討し、畑果樹園、採草地、放牧地、或は造林地として適切にその利用を図ろうとするものです。

これは市が入会地を強引に整理を行おうとするものでは毛頭ないので、現在の入会地が関係部落において多角経営され、いざかえなく適切な利用が行われているものはそれで結構なことなのです。

ただ、原野状態のままに何等の利用方途も構ぜられず放置されがちな入会地について関係部落との家族的な雰囲気の中で、円満な話し合いによって、その適切な利用を考えようというもので、こうした組合等の育成強化を図り、特にその活動の総合調整によって新農村建設、酪農振興、土地改良など一連の農政活動の推進をはかろうとしています。

▼耕種改善指導事業　水稲及び畑作の耕種改善に重点をおき、特に育苗市場との関連において計画生産、計画販売のための特産地育成を図るとともに病害虫の防除対策の万全を期することにしています。

▼農業団体の育成強化と活動の総合調整　農協の実態調査を行って

事出さない注意 火消す備え

大館は犬に歩らす犬火で有名です。しかしこのありがたくない汚名は一時も早く返上しようと懸命です。そこで市消防本部から今年の計画や抱負を聞いてみた。

▼御成町に分遣所新設

御成町二丁目を中心として中道、清水町の連なる一帯は大火が予想される最も危険な区域であり、本署からの距離も二、五Kもあり、また釈迦内、長木地区にも近接するので、かねてから分遣所（出張所）の設置が望まれていたもの、場所は青果市場南隣りの市有地に、ブロック建三十坪を予定、新築着工の運びとなっています。

この分遣所の建物ができますと第四分団ポンプ車と二台を格納し、職員は交代制で二十四時間勤務の予管となっています。工事は遅くとも三月中には完工開所できるものとみられ、これによって関係地域の警備態勢が一応ととのうことになります。

▼専任予防査察の実施

火災は年々減るどころか、増加の一途をたどっており、その原因の多くは不注意によるものです。そこで、この四月から四名を専任（婦日勤務二名交代）し、常時予防査察を行う計画をすすめています。

▼火災報知機施設の計画

火災報知機施設の必要とする理由は、これまでの大火は例外なく覚醒発見で、市民の火災報知の無関心さに注意が喚起されています。小都市の消防力の不足を補うにはどうしても一知る」時間の短縮よりほかに途がなく、全国平均の通報時つ時の鬼坪数をみもて、望楼発見一五坪専用電話一七坪、火災報知機七坪のようになっているとから、

"事情を申し述べる"は能率的に

任機関員の配置なども考えられています。

▼その他ポンプ車の老朽化による更新や十二所地区の専

▼水利

貯水槽の施設計画は年次計画で集団地域を対象として実施していますが、国庫の補助事業としての施設をさらに増強しようとしています。これとともに既設の自然水等による水利の改修を図り、水利面からの消防体勢の確立に努めることになっています。

誰れでも覚知次第通知できる報知機の設置を新年度から三カ年計画で実現しようとしています。

▼可搬式消防ポンプ配置計画

可搬式消防ポンプは昭和三十一年度を初年度とする五カ年計画をもって配置することにしていますが、現在既に七十五%の配置完了をみていますので計画年次を短縮しても無防備地区への配置を図ろうとしています。

局だと思います。これはそのもつ仕事の性格からも当然でしょう。だがこんな話しを聞かせてもらいました。

陳情という熟語を辞書によってみたら〝事情を申し述べる〟とある。そこで、その事情を申しのべるのに五人、十人と来るのが普通で、中には議員を紹介者にしてモノモノしくやってくることもある。

その心理は効果を狙ってのことだということはわからないでもないが、非常に能的強しようとしているのではないし、民主的でもない。そこで、平素から考えていることだが、こと議会に対する陳情、請願は、是非文書で出すようにしたいものだ。どんなことでも議会に出されたものについては事務的面の調査が行われ運営会議にかけられ、本会議の構だから能率的にやってもらえるものだ。こうしたところから議会の常時啓蒙の必要が生じてくるわけだ。

「町時代は陳情、請願というものが殆んどなかったが、市になってからはどういうものか、ずいぶん出されている。

総選挙 地方選挙 に備えて

〝光陰は矢の如し〟古い云葉ですが毎年繰返される衆選の真理です。新年度は第二十八回の衆議院議員総選挙が行われるとともに地方選挙にも備える重要な年であります。

そこで、市選挙管理委員会では次の三項をとりあげ、諸般の準備をすすめています。

▼常時啓発に努める。

私達が物ごとに処するには先行するものではないと考えられるのですが、従来やもすれば知識偏重、技術偏重のきらいがあり、これが選挙をして難解晦渋なものに仕向けたように感じられます。こうしたところから選管の常時啓蒙の必要が生じてくるわけです。

選管は選挙のあるときのみ存在するものように思われていることもあるのではないだろうか、或る人が曰く「選挙は四年に一度あるのだが、その間は何をしているのか」といったそうである。これに対して選管では「選挙の事務というのは、選挙があるときは臨時的で、常時啓発こそ、その本務である」と答えたそうである。

▼選挙事務の特性からよく研さんを積み、円滑に公明選挙の実をあげようと努力しています。

▼選挙事務のもつ特性からよく研さんを積み、円滑に公明選挙の実をあげようと努力しています。

本年もまた実態調査が行われるわけですが有権者の完全把握と名簿の縦覧を通じて一人の脱漏のないようと、その協力方を望んでいます。

大館時間をなくしよう

新生活協議会結成

生活の合理化や協同化、また生活環境の改善によって、私達の住む郷土を、より明るく楽しいものにしようと、大館市新生活協議会が結成されました。これは去る十一月十八日、中央公民館で、学校、職場、地域の代表者など、多数の関係者が集い、①各地域、職場における新生活の育成、助長②新生活実施に関する啓蒙、宣伝③新生活に関する研究調査④新生活実施について行政機関及び関係団体との連絡提携⑤新生活実施に関する企画立案⑥その他新生活実施について必要な事項などを目的とした規約と役員を決め新年度の実施課題として①正月の新正に統一すること②大館時間を実施すること、の二点を申し合せました。

新生活協議会の役員は次のとおり

○会長＝市長佐藤敬治
○副会長＝市議会副議長佐藤栄治
○十二所新生協議会長＝野口弘
○評議員、各地区協議会代表一名及び各種関係機関代表一名（人選未定）
○監事＝釈迦内公民館長渡辺勝蔵、長木公民館長三浦久雄

市の手数料条例変る

合理的改正により 一月一日から実施

市の手数料条例が改正され十円引上げて四十円（但し図面については百円）にするとともに手数料の測定単位を合理的に改めたものです。

改正後の手数料の種類、金額は次の通り

▼証明一件につき四〇円
▼公簿、公文書、図面、印鑑の閲覧（牛馬籍を除く）一件三〇円（従前通り）
▼公簿、公文書の謄本（牛馬籍を除く）一件に四〇円（但し図面は百円）▼牛馬籍の閲覧（一回につき一〇円（従前通り））▼牛馬籍の謄本一枚につき三〇円（従前通り）

円を増徴していたものを、五筆までは一件とし、一筆を増すごとに五円を増徴することにしたこと。建物は一棟をもって一件、一棟増すごとに十円増徴。▼公簿、公文書の謄本、牛馬籍を除く）一件に四〇円（但し図面は百円）▼牛馬籍の閲覧（一回につき一〇円（従前通り））▼牛馬籍の謄本一枚につき三〇円（従前通り）

▼二件以上を一括して申請するときは、その種類の異なること二件とすること▼二人以上を列記して、それらの者に対して同一の証明をするときは、一人について一件とすること。▼現在、土地に関する手数料は一筆をもって一件とし、一筆を増すごとに十円